

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00652

研究課題名(和文) 『カンタベリー物語』諸刊本の電子テキスト化と比較による非人称構文研究

研究課題名(英文) An analysis of the impersonal construction by digitizing and comparing the printed editions of The Canterbury Tales

研究代表者

大野 英志 (Ohno, Hideshi)

広島大学・人間社会科学研究科(文)・教授

研究者番号：80299271

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、非人称構文(例：me ought)から人称構文(例：I ought)への史的変遷について、『カンタベリー物語』を調査対象として、同一文脈を分析し、14世紀末に書かれた初期写本に見られる非人称構文が15世紀末に出版された刊本でどのように維持・変更されているか、構文交代の詳細な過程を明らかにすることを目的とした。具体的には「好み」を表す2動詞と「義務・必然性」を表す2動詞を調査し、全体的に刊本は同時代の他作品と同様に人称構文を好むこと、そして特に後者の動詞については主語が2人称の場合に人称構文になる傾向が強く、変遷は一樣ではないことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究の基盤として、初期写本2つと15世紀刊本4つのテキスト1行ごとに比較できるパラレルテキストを作成した。これにより、1つの非人称動詞の用法が写本刊本の時代順にどのように変化しただけでなく、刊本の中には非人称動詞の代わりに全く別の表現を使うものがあること、最も後に印刷された刊本は手本となる刊本より初期写本に近い用法を取る傾向があることも明らかになった。パラレルテキストが刊本の編集の研究にいかにも有益であるかがわかった。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to clarify the detailed process of the historical change of the impersonal (e.g. me ought) to the personal (e.g. I ought) construction. Unlike previous studies using large historical corpora, the research surveyed 14th-century manuscripts and 15th-century printed editions of The Canterbury Tales, focusing on how one example in the earliest manuscript was treated in the later editions. Specifically, the two verbs that express "preference" and the two verbs that express "obligation / necessity" were examined. The results are the following: overall the editions prefer the personal construction in a similar way as other 15th-century works, and especially the verbs of obligation / necessity have a strong tendency towards the personal construction when they take a second-person subject. This means that the transition is not uniform.

研究分野：人文学

キーワード：非人称構文 『カンタベリー物語』 15世紀刊本 パラレルテキスト

1. 研究開始当初の背景

非人称構文は **van der Gaaf (1904年)** 以来、記述的な共時的研究、そして計量的な通時的研究は行われてきた。ただ、前者は統語形式の記述に留まり、また後者は異なるテキストを調査対象としており、一般的な変遷の傾向は表すものの、特定の文脈における非人称構文の例が後の時代にどのように理解されたかは未解明である。**Fischer & van der Leek (1983年)** は構文選択は関与する人(以下、「経験者」)の意志 (**volitionality**) と関係すると主張するが、多くのデータ分析に基づいているか否かは定かでない。大野はこれまで **14世紀**の英国詩人 **Geoffrey Chaucer** の作品において、人称・非人称両構文を持つ動詞についてその使い分けの要因や効果を、統語形式や詩の形式だけではなく、**Fischer & van der Leek** の主張も踏まえながら意味や文脈の点から考察している。

2015~2017年度に研究課題「コンピュータによる『カンタベリー物語』(以下 **CT**) 諸写本と印刷本の計量的比較」(基盤研究(C))に研究分担者として加わり、**2016年7月**に開催された国際チヨウサー学会(於 **Queen Mary University of London**)で口頭発表を行った。その発表は‘The Knight’s Tale’について、初期**2**写本(**Hengwrt**写本と**Ellesmere**写本)と初期刊本(**Caxton**版**2**つ、**Pynson**版、**de Worde**版)など**8**つの電子化したテキストの平行テキストを示し、**Pynson**版と**de Worde**版の言語的特徴を概観した。その発表で動詞 **listen**に見られる非人称構文の異同の例も示した。その動詞は**1**人称単数の経験者と共起する場合、初期**2**写本では全て非人称構文であるが、**Pynson**版に人称用法の例が見られた。しかも、上記研究課題は **CT**の**Fragment I**のみを扱うに留まった。このことは、調査対象を **CT**全体に広げ、**15世紀**の版における非人称構文の用法を詳細に見ること、そして扱う動詞を様々な意味領域のものに広げ、意味領域の違いによる構文の使用傾向の違いを見ることの必要性を示した。

2. 研究の目的

非人称構文から人称構文への変遷という通時的傾向に従う例と従わない例(特に、従来の研究では光を当てられていない、同じ統語環境下における構文の揺れ)が刊本に見られる場合に、両者にどのような違いがあるのか。非人称構文の継承と書き換えに、**15世紀**の刊本編集者の言語感覚や手本と考えられている刊本(**Caxton**版)や写本の影響はあるか。これらの問いに答えるべく、**CT**全体について、初期**2**写本で人称・非人称の両構文に現れる**17**動詞は非人称構文が廃れたとされる**15世紀末**の刊本(**Pynson**版と**de Worde**版)でどう扱われているか、つまり非人称構文が継承されたか人称構文に書き換えられたかについて、その手本と考えられている**Caxton**版および初期**2**写本との平行テキスト作成により視覚化しながら、その要因を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

Pynson版と**de Worde**版の**CT**の内、未入力 of 物語(**Fragment II**以降)を電子化し、電子化済みの初期**2**写本や**Caxton**第**2**版との平行テキストを作成する。調査対象動詞について、本文異同の状況を、動詞のある節の中だけでなく前後の統語構造も含めて比較し、文脈・内容を考慮に入れながら、非人称構文が継承されている箇所と書き換えられている箇所の比較検討を行う。また、**Pynson**版と**de Worde**版の作成過程では**Caxton**版以外にもある写本の関与が指摘されていることから、異同が見られる箇所については**Manly & Rickert (1940年)**を用いて**80**余りある**CT**写本の内どの写本と最も類似しているかを調べる。

4. 研究成果

Early English Books Onlineより入手した刊本資料そのものの印刷が不鮮明であった箇所(**Fragment VII**の一部と**Fragment X**)を除く全ての箇所を入力(電子化)し、**1**行ずつ初期写本との平行テキストを以下の図のように作成した。

HG: God help me so / me list ful yuele pleye
EL: God help me so / me list ful yuele pleye
X1: God helpe so me lust ful lityl to play
X2: God helpe so me lust ful lytyl to play
PY: God helpe me so I lust ful litel to pley
WY: God helpe so me lust full lytyll to playe

図 1. **Fragment I**, **1127**行目の写本・刊本間の比較

(注 **HG**: **Hengwrt**写本、**EL**: **Ellesmere**写本、**X1**: **Caxton**第**1**版、**X2**: **Caxton**第**2**版、**PY**: **Pynson**版、**WY**: **de Worde**版)

この図から、動詞 *listen* が Pynson 版のみで主格主語を伴っている（つまり非人称構文ではなく人称構文が選択された）ことが視覚的によくわかる。

そして、非人称構文を取る動詞の中でも比較的用例数の多い *liken, listen*（以上は好みを表す動詞）と *ouen, neden*（以上は義務・必然性を表す動詞）を調査対象として絞り込み、これら 4 動詞については図 2 が示すように CT の全用例を全ての写本と刊本で確認した。

Hg: The causes that oghten moeuen a man to contricioun been .vj.
El: The causes that oghte moeue a man to Contriciou / been .vj.
X1: These causes that meue a man to contricion ben .vj.
X2: These causes that meue a man to contricyon ben .vj.
WY: The causes that ought moue a man to contrycōn ben .vi.

図 2 Fragment X、133 行目の写本・刊本間の比較

このようにして 4 動詞の用法の変遷を調査した結果、*listen* と *ouen* について 2 人称主語を取る場合に、非人称から人称への構文選択の変化が強く表れていることがわかり、言語の史的变化は一様ではないことがわかった。（この内、*listen* の成果について国際チョーサー学会第 21 回大会でのポスター発表と International Medieval Congress Leeds 2019 での口頭発表し、それを基にした論考は現在学術誌にて査読中である。）

次に、Fischer & van der Leek（1983 年）の主張する、両用法と主語の意志 (volitionality) の強さとの関係性を踏まえ、上述の結果は、初期写本で同一動詞に見られた人称・非人称両用法の使い分け、換言すると発話者の聞き手に対する態度の濃淡が、15 世紀刊本では読み取りづらくなっているということを示すのではないかと指摘した。ただ、1 つの刊本においても用例によって人称用法への変更が行われない場合があり、さらに de Worde 版は手本とした Caxton 第 2 版よりも初期写本寄りの古風な表現を好む箇所があることもわかり、この点においても読み手を意識した刊本印刷に携わる人々の言語観が明らかになった。

続いて、非人称構文の観点から、各刊本と近い現存写本を特定する作業も行った。手本と異なる表現が出現した場合、それと同様の表現を持つ写本について、量的、質的手法を用いて分析した。その成果を 2020 年の国際チョーサー学会で発表予定だったが、COVID-19 の影響により延期となり、2022 年にオンライン発表の予定である。

また、2019 年には日本中世英語英文学会第 35 回全国大会のシンポジウム *Editing and the Interpretation of Texts: Past, Present and Future Practices* にて、本研究の内容を国内外の研究者に周知した。

参考文献

(1) テキスト

Bordalejo, B., ed. *Caxton's Canterbury Tales: The British Library Copies*. CD-ROM. London: British Library, 2003.

Pynson, R., pr. *Canterbury Tales*. 1492. Web. Early English Books Online. <<https://search.proquest.com/eebo/docview/2264198830/A35FBD6881B94BCAPQ/2?accountid=15247&imgSeq=1>>

Ruggiers, Paul G., ed. *The Canterbury Tales: A Facsimile and Transcription of the Hengwrt Manuscript with Variants from the Ellesmere Manuscript*. A Variorum Edition of the Works of Geoffrey Chaucer. Vol. 1. Norman: University of Oklahoma Press, 1979.

Stubbs, Estelle, ed. *The Hengwrt Chaucer Digital Facsimile*. CD-ROM. Leicester, UK: Scholarly Digital Editions, 2000.

de Worde, Wynkyn, pr. *The Boke of Chaucer Named Caunterbury Tales*. 1498. Web. Early English Books Online. <<https://search.proquest.com/eebo/docview/2240920086/C5F56239A565483EPQ/1?accountid=15247&imgSeq=1>>

(2) 参考文献

Fischer, Olga C. M. and Frederike C. van der Leek. "The Demise of the Old English Impersonal Construction." *Journal of Linguistics* 19 (1983): 337–68.

van der Gaaf, W. *The Transition from the Impersonal to the Personal Construction in Middle English*. Heidelberg: Carl Winter's Universitätsbuchhandlung, 1904.

Manly, John M. and Edith Rickert. *The Text of The Canterbury Tales: Studied on the Basis of All Known Manuscripts*. 8 vols. Chicago: The University of Chicago Press, 1940.

Ohno, Hideshi. *Variation between Personal and Impersonal Constructions in Geoffrey Chaucer: A Stylistic Approach*. Okayama: University Education Press, 2015.

Ohno, Hideshi, Akiyuki Jimura, Yoshiyuki Nakao, Noriyuki Kawano, and Kenichi Satoh. "Textual Variations and Readings among the Manuscripts and Editions of *The Canterbury Tales*: With Special Reference to *The Knight's Tale*." *Hiroshima Studies in*

***English Language and Literature* 62 (2018): 1–13.**

Ohno, Hideshi. The Use of *ouen* in Fifteenth-Century Printed Editions of *The Canterbury Tales*. *Hiroshima Studies in English Language and Literature* 66 (2022): 1-20.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hideshi Ohno	4. 巻 66
2. 論文標題 The Use of ouen in Fifteenth-Century Printed Editions of The Canterbury Tales.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 英語英文学研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地村彰之	4. 巻 -
2. 論文標題 A New Approach to the Manuscripts and Editions of The Canterbury Tales: With Special Reference to Thynne's Edition	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 狩野晃一編 『中世英文学の日々に 池上忠弘先生追悼論文集』 (英宝社)	6. 最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Nakao	4. 巻 -
2. 論文標題 Chapter IX. Chaucer's Speech and Thought Representation in Troilus and Criseyde: Encoded Subjectivities and Semantic Extension.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Jonathan Fruoco ed. Polyphony and the Modern. Routledge.	6. 最初と最後の頁 169-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾佳行 訳	4. 巻 -
2. 論文標題 「托鉢修道士の話」 pp. 317-38、「教会裁判所召喚吏の話」 pp. 319-72.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 池上忠弘監訳。共同新訳版。ジェフリー・チョーサー著 『カンタベリー物語』、悠書館	6. 最初と最後の頁 317-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideshi Ohno	4. 巻 39(2)
2. 論文標題 'A Synchronic Analysis of Transition from the Impersonal to Personal Construction.' The Rising Generation, 153/2 (2007): 110-113.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 eJGN (John Gower Newsletter)	6. 最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地村彰之	4. 巻 56
2. 論文標題 The House of Fameと「商人の話」における五感の表現 真実と嘘をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山理科大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾佳行	4. 巻 7
2. 論文標題 チャオサーの話法の伝達動詞を考える 『トロイラスとクリセイデ』の場合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学教育論叢	6. 最初と最後の頁 119-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 H. Sekiguchi, T. Fukuda, Y. Tamaki, K. Hanashiro, K. Satoh, E. Ueno, I. Kukita	4. 巻 38(7)
2. 論文標題 Computerized Data Mining Analysis of Keywords as Indicators of the Concepts in AHA-BLS Guideline Updates	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The American Journal of Emergency Medicine	6. 最初と最後の頁 1436-1440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajem.2019.11.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾佳行・池上忠弘	4. 巻 6
2. 論文標題 『カンタベリ物語』(The Canterbury Tales)の写本と初期刊本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大学教育論叢』	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地村彰之・笹本長敬共訳	4. 巻 55
2. 論文標題 ジェフリー・チョーサー作『短詩集』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『岡山理科大学紀要』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 H. Sekiguchi, T. Fukuda, Y. Tamaki, K. Hanashiro, K. Satoh, E. Ueno, I. Kukita	4. 巻 -
2. 論文標題 Computerized Data Mining Analysis of Keywords as Indicators of the Concepts in AHA-BLS Guideline Updates	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The American Journal of Emergency Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajem.2019.11.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideshi Ohno	4. 巻 -
2. 論文標題 On the use of lief in Chaucer.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Pleasure of English Language and Literature. (Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, & Osamu Imahayashi, eds. Keisuisha)	6. 最初と最後の頁 261-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyuki Jimura	4. 巻 33
2. 論文標題 Chaucer 's House Revisited	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地村彰之・笹本長敬訳	4. 巻 53
2. 論文標題 ジェフリー・チョーサー作『善女列伝』(3) - 性愛に殉じた聖女伝集 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡山理科大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Nakao	4. 巻 -
2. 論文標題 The Semantics of Chaucer 's speech/thought presentation in Troilus and Criseyde: The Emergence of conceptual blending	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Pleasure of English Language and Literature: A Festschrift for Akiyuki Jimura. (Hiroshima: Keisuisha)	6. 最初と最後の頁 241-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾佳行	4. 巻 5
2. 論文標題 チョーサーの話法の意味論 (2) 地の文の現在時制 : Tr 5. 176-96	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学教育論叢 (福山大学)	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 A. Hasegawa, M. Koike, M. Nemoto, T. Ohba, C. Yamada, S. Matsui, M. Fujino and K. Satoh	4. 巻 59
2. 論文標題 Lexical analysis suggests differences between subgroups in anxieties over radiation exposure in Fukushima	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 大野英志
2. 発表標題 The Use of ouen in Fifteenth-Century Printed Editions of The Canterbury Tales.
3. 学会等名 広島英語研究会5月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大野英志
2. 発表標題 The Use of ouen in Fifteenth-Century Printed Editions of The Canterbury Tales.
3. 学会等名 広島英語研究会第61回夏季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大野英志
2. 発表標題 An Attempt to Identify Textual Ghosts of the 15th-century Canterbury Tales Editions: With Special Reference to Impersonal Verbs.
3. 学会等名 広島英語研究会2022年1月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 地村彰之・笹本長敬
2. 発表標題 ジェフリー・チョーサー作『善女列伝・短詩集』の翻訳にあたって
3. 学会等名 日本中世英語英文学会西支部第37回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 チョーサーの話法と「主体」の演出 childe（「トパス卿の話」、VII 806）の意義付けをめぐって
3. 学会等名 日本英文学会第93回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 チョーサーの話法における「安定」と「不安定」
3. 学会等名 日本英文学会 中国四国支部 第 73 回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 チョーサーの narrative tense を考える Fleischman（1990）の機能論から見直す
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第37回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大野英志
2. 発表標題 An Attempt to Identify Textual Ghosts of the 15th-century Canterbury Tales Editions: With Special Reference to Impersonal Verbs.
3. 学会等名 The 22nd Biennial New Chaucer Society Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideshi Ohno
2. 発表標題 Variations in Use of listen among the Earliest Manuscripts and Printed Editions of The Canterbury Tales
3. 学会等名 International Medieval Congress Leeds 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideshi Ohno, Yoshiyuki Nakao, Akiyuki Jimura
2. 発表標題 Transcribing and Printing as Editorial Interpretations: A Comparative Case Study on the Canterbury Tales
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第35回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 チヨースアの「歴史的現在」と視点 「ジェネラルプロローグ」185-89行を中心に
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第35 回西支部部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾佳行、地村彰之
2. 発表標題 Professor Michio Masui, CBE: His Research and Education in Hiroshima University
3. 学会等名 第60回夏季広島英語研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideshi Ohno
2. 発表標題 Variation among Manuscripts and Editions of The Canterbury Tales: With Special Reference to Personal and Impersonal Constructions
3. 学会等名 The 21st Congress of the New Chaucer Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyuki Jimura
2. 発表標題 A New Approach to the Manuscripts and Editions of The Canterbury Tales: With Special Reference to Thynne ' s Edition
3. 学会等名 The 21st Congress of the New Chaucer Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 中英語韻文に見る話法の意味論 『トロイラスとクリセイデ』を中心に
3. 学会等名 近代英語協会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾佳行
2. 発表標題 トバス卿の話「の言語とスキーマの多次元構造」
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第34回大会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 K. Satoh
2. 発表標題 Text mining of declaration of Hiroshima 1947 2016 and its visualization
3. 学会等名 The fifth meeting of the Institute of Mathematical Statistics (IMS) meeting series, the IMS Asia Pacific Rim Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 地村彰之・笹本長敬訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 267
3. 書名 ジェフリー・チョーサー作『善女列伝・短詩集』	

1. 著者名 片見彰夫他編、大野英志、寺澤盾他著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 288
3. 書名 『英語教師のための英語史』	

1. 著者名 Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, & Osamu Imahayashi, eds.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Keisuisha	5. 総ページ数 400
3. 書名 The Pleasure of English Language and Literature	

1. 著者名 中尾佳行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 230
3. 書名 『ユーザーの言語と認知 「トバス卿」の言語とスキーマの多次元構造 』（溪水社）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	地村 彰之 (Jimura Akiyuki) (00131409)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・名誉教授 (15401)	
研究分担者	中尾 佳行 (Nakao Yoshiyuki) (10136153)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・名誉教授 (15401)	
研究分担者	佐藤 健一 (Satoh Kenichi) (30284219)	滋賀大学・データサイエンス教育研究センター・教授 (14201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------